

平成 21 年度

# 病害虫発生予報第 1 号

平成 21 年 4 月 23 日

## 三重県病害虫防除所

515-2316 三重県松阪市嬉野川北町 530

TEL 0598-42-6365 Fax 0598-42-7568

ホームページ<http://www.mate.pref.mie.jp/boiyosyo/>

## 目 次

	ページ
1. 向こう 1 か月の予報と対策	1
2. 作物別の状況	2
3. 発生時期・発生量（平年比）の予察根拠	5
4. 予察項目の見方	9
5. 今月のトピックス（タバココナジラミについて）	10
6. 気象のデータ	11
7. おしらせ	13

## 1. 向こう 1 か月の予報と対策

### 1) 作物

イネでは、イネミズゾウムシの発生時期は**やや早**、発生量は**少**と予想されます。

### 2) 果樹

カンキツでは、そうか病、かいよう病（温州みかん）の発生量は**少**、かいよう病（中晩柑類）の発生量は**やや少**、ミカンハダニの発生量は**平年並**と予想されます。

ナシでは、赤星病の発生量は**少**、アブラムシ類の発生量は**やや少**、黒星病、ハダニ類の発生量は**平年並**と予想されます。

果樹共通では、果樹カメムシ類の発生量は**平年並**と予想されますが、昨年多飛来が見られた園地やナシ園等では、早期からの飛来に注意してください。

### 3) 茶

チャでは、カンザワハダニ、クワシロカイガラムシ**やや少**、チャノホソガ、チャノキイロアザミウマの発生量は**平年並**と予想されます。チャノコカクモンハマキの発生量は**やや多**と予想されるので、状況を見て対応してください。

### 4) 野菜

イチゴでは、ハダニ類の発生量は**やや多**と予想されますので、収穫を続ける圃場では注意してください。

## 2. 作物別の状況

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項						
			発生量	程度		4月	5月									
						下旬	上旬	中旬	下旬							
イネ	イネミズゾウムシ	やや早	少	小	低					<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 今年はこれまで暖かかったので、田植直後から成虫が加害するようになると思われます。</li> <li>2) 被害の常発する圃場では箱施用による予防防除を行ってください。</li> <li>3) 近年被害が減少しているため、田植え後でも、本田施用できる薬剤で防除が可能です。</li> </ol>						
						そうか病	—	少	小		低					<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 発芽期の防除を実施することで、その後の発生を抑えることができます。</li> <li>2) 新葉に病斑がみられる圃場では、その後果実へ感染しますので、幼果期の防除を計画してください。</li> </ol>
												かいよう病	—	(温州)少 (中晩柑)やや少	小	
ミカンハダニ	—	平年並	中	普通					<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 冬期にマシン油乳剤を散布していない圃場では、新梢伸長期に急増することがあるので注意してください。</li> <li>2) 成虫が1葉当たり0.5~1.0頭になったら防除を計画してください。</li> </ol>							
					ナシ	黒星病	—	平年並		中	普通					<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 昨年の発生が多かった圃場では、週間予報等の情報に注意し、防除適期を逃さないようにしてください。</li> <li>2) 発病が確認されたら追加防除を行ってください。</li> </ol>

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生活消長の一例				防除の注意事項
						4月	5月			
						下旬	上旬	中旬	下旬	
ナシ	赤星病	—	少	小	低	<p>ビヤクシン類の冬胞子発芽</p> <p>ナシの発病</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) カイツカイブキ等の枝葉に生成された病原菌が飛散して、ナシに感染します。</li> <li>2) 病原菌は雨中の風によって飛散し、主に降雨中に感染します。</li> </ol>			
	ハダニ類	—	平年並	小	普通	<p>成ダニ密度</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 成虫が1葉当り1~2頭になるまでに防除してください。</li> </ol>			
	アブラムシ類	—	やや少	小	低	<p>ナシノアブラムシ</p> <p>ナシミドリオオアブラムシ</p> <p>ワタアブラムシ</p> <p>ユキヤナギアブラムシ</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) アブラムシ類は初期の寄生を見つけることが重要です。園地巡回の時に注意してください。</li> <li>2) 寄生葉付近はアリが活発に活動しているので、アブラムシ寄生の目安になります。</li> </ol>			
果樹共通	カメムシ類	—	平年並	小	低	<p>トラップ誘殺数</p> <p>ツヤアオカメムシ</p> <p>チャバネアオカメムシ</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 果樹カメムシ類は、4月はウメ、5月はナシ、ビワ、モモに飛来します。</li> <li>2) 昨年秋に多飛来が確認された園地周辺では、特に注意をして下さい。</li> <li>3) 防除は圃場及び圃場周辺（街灯への夜間飛来など）への果樹カメムシ類の飛来を確認して行ってください。</li> </ol>			
チャ	カンザワハダニ	—	やや少	小	普通	<p>成ダニ密度</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 気温の上昇と共に、急増することがありますので、状況を見て防除を計画してください。</li> </ol>			

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生活消長の一例				防除の注意事項
						4月	5月			
						下旬	上旬	中旬	下旬	
チャ	チャノホソガ	—	平年並	小	普通	成虫密度 				<ul style="list-style-type: none"> <li>1) すでに産卵が確認されている圃場では、芽の伸長に注意し、防除を計画してください。</li> <li>2) 幼木等を防除する場合も周辺の摘採状況等を考慮して慎重に防除してください。</li> </ul>
	チャノキイロアザミウマ	—	平年並	小	低	成虫密度 				<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 二番茶芽の開葉初期が防除適期です。</li> </ul>
	クワシロカイガラムシ	—	やや少	小	普通			第1世代成虫密度 		<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 防除適期は、孵化最盛期から5～7日後です。</li> <li>2) 株内の枝や幹に寄生しているので、枝幹を洗い流すように薬剤散布をしてください。</li> <li>3) 防除適期が一番茶の摘採時期と重なって、第1世代の防除ができなかった場合は、必ず第2世代幼虫発生期の防除を実施してください。</li> </ul>
	チャノコカクモンハマキ	—	やや多	小	普通	成虫密度 				<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 成長すると葉を2～3枚かたく綴り葉液がかかりにくくなるので、孵化後の若齢幼虫を対象に防除してください。</li> <li>2) 防除適期は成虫の発生ピークの7～10日後で、各茶期の摘採直後になる傾向があります。</li> </ul>
イチゴ	ハダニ類	—	やや多	中	普通	成ダニ密度 				<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 収穫を続ける圃場では収穫前日数と総使用回数を守り防除してください。</li> </ul>

### 3. 発生時期・発生量（平年比）の予察根拠

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
イネ	イネミズゾウムシ	やや早	少	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 1か月予報（4月17日発表）によると、4月末の気温は低く(+)、5月以降は低くない(-)予想（発生時期±）</li> <li>2) 4月中旬の気温が高かったため、すでに成虫が加害（発生時期-）</li> <li>3) ソメイヨシノ満開日（津市）は4月2日とやや早（平年4月7日）（イネミズゾウムシ越冬成虫の初飛来日と相関関係あり）（発生時期-）</li> <li>4) 昨年8月の巡回調査圃場（払い落とし）では、成虫の発生圃場率は8.0%（平年10.6%）で少、虫数は0.11頭（平年0.18頭）でやや少の傾向（-）</li> <li>5) 昨年の予察灯（水田・松阪市、7～8月）では、誘殺数は97頭（平年158頭）と少（-）</li> </ol> <p>考察：すでに越冬からさめているので発生時期は<b>やや早</b>、また越冬量から考慮して予想発生量は<b>少</b>と考えます。</p>
カンキツ	そうか病	-	少	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 1か月予報（4月17日発表）によると、4月末の気温は低く(-)、5月以降は低くない(+) 予想（+）</li> <li>2) 県予察圃では、初発未確認（4月15日現在、平年4月19日）（-）</li> <li>3) 巡回調査圃場（4月第2週）では、全調査圃場で病斑未確認（-）</li> <li>4) 一般圃場では、発生量は少（-）</li> </ol> <p>考察：急増する要因はなく、予想発生量は<b>少</b>と考えます。</p>
	かいよう病	-	(温州) 少 (中晩柑) やや少	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 1か月予報（4月17日発表）によると、4月末の気温は低く(-)、5月以降は低くない(+) 予想（+）</li> <li>2) 県予察圃（中晩柑類4月13日）では、越冬病斑の発病葉率は33.4%（平年33.1%）と平年並の傾向（±）</li> <li>3) 巡回調査圃場（4月第2週）では、温州みかんでは平均発病度0.04（1圃場で発生）と少の傾向(-)、中晩柑類では平均発病度1.79（4圃場で発生）と平年よりやや多の傾向(+）（+）</li> <li>4) 一般圃場では、発生量は少～並（概して少）（-）</li> </ol> <p>考察：温州みかんでは発病が増加するとは考えにくく、予想発生量は<b>少</b>と考えます。中晩柑類では急増する要因はなく、予想発生量は<b>やや少</b>と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
カンキツ	ミカンハダニ	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報（4月17日発表）によると、4月末の気温は低く(－)、5月以降は低くない(+) 予想（+）</p> <p>2) 県予察圃（4月中旬）では、100葉当寄生虫数は、無防除区では613.3頭（平年23.0頭）と多の傾向、防除区では1.2頭（平年0.0頭）と平年並の傾向（±）</p> <p>3) 巡回調査圃場（4月第2週）では、平均寄生葉率は9.8%（平年4.9%）と多、発生圃場率は53.8%（平年36.6%）とやや多の傾向（+）</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は少～並（概してやや少）（－）</p> <p>考察： 現状の発生はやや少と考えられますが、今後の気象要因による増加を考慮して、予想発生量は<b>平年並</b>と考えます。</p>
ナシ	黒星病	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報（4月17日発表）によると、4月末の気温は低く(－)、5月以降は低くない(+) 予想（+）</p> <p>2) 巡回調査圃場（4月第2週）では、平均発病芽率は0%（平年0%）と平年並（±）</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は少～平年並（概してやや少）（－）</p> <p>考察： 現状の発生はやや少と考えられますが、今後の気象要因による増加を考慮して、予想発生量は<b>平年並</b>と考えます。</p>
	赤星病	—	少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報（4月17日発表）によると、4月末の気温は低く(－)、5月以降は低くない(+) 予想（+）</p> <p>2) 巡回調査圃場（4月第2週）では、展葉見られず発生は未確認（±）</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は少～平年並（概して少）（－）</p> <p>考察： 現状の発生は少と考えられ、大きな増減の要因はなく、予想発生量は<b>少</b>と考えます。</p>
	ハダニ類	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報（4月17日発表）によると、4月末の気温は低く(－)、5月以降は低くない(+) 予想（+）</p> <p>2) 巡回調査圃場（4月第2週）では、展葉見られず寄生は未確認（±）</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は少（－）</p> <p>考察： 現状の発生は平年並に少ないと考えられ、大きな増減の要因はなく、予想発生量は<b>平年並</b>と考えます。</p>
	アブラムシ類	—	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報（4月17日発表）によると、4月末の気温は低く(－)、5月以降は低くない(+) 予想（+）</p> <p>2) 巡回調査圃場（4月第2週）では、展葉見られず寄生は未確認（±）</p> <p>3) 一般圃場では、発生量はやや少～平年並（概して平年並）（±）</p> <p>考察： 現状の発生はやや少と考えられ、大きな増減の要因はないので予想発生量は<b>やや少</b>と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
果樹 共通	カメムシ類	—	平年並	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 予察灯（御浜町 4 月 1 日～9 日）では、誘殺数はチャバネアオカメムシ 0 頭（平年 93 頭）、ツヤアオカメムシ 0 頭（平年 340 頭）と少の傾向（－）</li> <li>2) 予察灯（畑・松阪市 4 月 1 日～15 日）では、誘殺数はチャバネアオカメムシ 0 頭（平年 0.2 頭）と平年並、ツヤアオカメムシ 0 頭（平年 0.2 頭）と平年並の傾向（±）</li> <li>3) フェロモントラップ（4 月 2 週）では、チャバネアオカメムシ誘殺数は、山地（津市白山町川口）で 14.3 頭（平年 9.8 頭）と平年並、中間地（津市白山町二本木）で 3 頭（平年 4.6 頭）とやや少、平地地（松阪市嬉野川北町）で 0 頭（平年 0.7 頭）と平年並の傾向（±）</li> <li>4) チャバネアオカメムシの越冬量は、1 地点当たり 1.3 頭（平年 0.1 頭）と多（＋）</li> <li>5) 巡回調査圃場（4 月第 2 週）では、飛来は未確認（－）</li> </ol> <p>考察： 越冬量はやや多いと考えられますが、現状の予察灯では少ない傾向で、フェロモントラップでは平年並の傾向です。今後の園地への飛来数としての予想発生量は<b>平年並</b>と考えます。</p>
	カンザワハダニ	—	やや少	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 1 か月予報（4 月 17 日発表）によると、4 月末の気温は低く（－）、5 月以降は低くない（＋）予想（＋）</li> <li>2) 県予察圃（4 月上中旬）では、寄生葉率は 0%（平年 19.7%）で少の傾向、1 葉当寄生虫数は 0.0 頭（平年 3.5 頭）で少の傾向（－）</li> <li>3) 巡回調査圃場（4 月第 2 週）では、平均寄生葉率は 1.1%（平年 4.7%）と少、平均寄生虫数は 0.02 頭（平年 0.30 頭）とやや少の傾向（－）</li> <li>4) 一般圃場では、発生量は少～平年並（概して少）（－）</li> </ol> <p>考察： 現状の発生は少と考えられますが、今後の気象要因による増加を考慮して、予想発生量は<b>やや少</b>と考えます。</p>
	チャノホソガ	—	平年並	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 一般圃場では、発生量は少～平年並（概して平年並）（±）</li> </ol> <p>考察： 一般圃場の発生量から考慮して、第 1 世代幼虫の予想発生量は<b>平年並</b>と考えます。</p>
	チャノキイロアザミウマ	—	平年並	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 吸引粘着トラップ（4 月 1～3 半旬）では、誘殺数は 63 頭（平年 135.5 頭）と少（－）</li> <li>2) 巡回調査圃場（4 月第 2 週）では、寄生葉率は 1.6（平年値 1.2）とやや多（＋）</li> </ol> <p>考察： 現状の発生は平年並と考えられ、大きな増減の要因はないので第 1 世代幼虫の予想発生量は<b>平年並</b>と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
チャ	クワシロカイガラ ムシ	—	やや少	<p>要因</p> <p>1) 巡回調査圃場（4月第2週）では、寄生株率は6.1%（平年14.0%）と少（-）</p> <p>2) 一般圃場では、少～平年並（概してやや少）（-）</p> <p>考察： 現状の発生状況はやや少と考えられ、大きな増減の要因はないので第1世代幼虫の予想発生量は<b>やや少</b>と考えます。</p>
	チャノコカクモン ハマキ	—	やや多	<p>要因</p> <p>1) フェロモントラップ（4月1～3半旬）では、誘殺数は83頭（平年55.5頭）とやや多（+）</p> <p>考察： 大きな増減要因がないので、予想発生量は<b>やや多</b>と考えます。</p>
イチゴ	ハダニ類	—	やや多	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報（4月17日発表）によると、4月末の気温は低く(-)、5月以降は低くない(+) 予想（+）</p> <p>2) 巡回調査圃場（4月第2週）では、寄生株率は11.4%（平年15.1%）とやや少（-）</p> <p>3) 近年、天敵の導入・利用が定着化（-）</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は平年並～やや多（概してやや多）（+）</p> <p>考察： 一般圃場の現状の発生量を重視して、予想発生量は<b>やや多</b>と考えます。</p>



## 4. 予察項目の見方

### 1) 「作物別の状況」の見方

**発生時期（平年比）：** 平年の発生月日からの差を「早、やや早、平年並、やや遅、遅」の5段階評価で予測します。ただし、発生時期が毎年大きく変化する病害虫では、日数の基準が下記より大きくなります。発生時期を予察する意義の小さい病害虫では予察しません。

日数		-6	-5	-4	-3	-2	-1	平年 発生日	1	2	3	4	5	6	
評価		早	やや早		平年並				やや遅			遅			

**発生量（平年比）：** 発生密度の平年値からの差を「少、やや少、平年並、やや多、多」の5段階評価で予測します。平年値との比較なので、平年値が小さければ、「多」になっても見かけの密度は多くないことがあります。毎年多発生している場合は「平年並」や「やや少」でも見かけ上は多いと感ずることがあります。

		平年値 ↓				
度数	10%	20%	20%	20%	20%	10%
評価	少	やや少	平年並		やや多	多

**発生量（程度）：** 発生程度を「小、中、大、甚」の4段階評価で予測します。評価の基準値は病害虫毎に異なりますが、大雑把には、「見た目の多さ・少なさ」です。甚になるほど見た目は多くなり、小になるほど見た目は少なくなります。「発生量（平年比）」と比べることによって、「平年並に発生程度が小さい」「発生程度は大きい平年並の発生量である」「平年より多いが、発生程度は小さい」「平年よ

りやや少ないが、依然として発生程度は中くらいである」等のように判断してください。

小	中	大	甚
---	---	---	---

**要防除圃場率（平年比）：** 防除の必要性の目安を「低、普通、高」の3段階評価で予測します。「普通」であれば、県下の大半の圃場では防除暦に沿った通常の防除をしていればよいと予想されます。「高」であれば、防除時期の見直しや追加防除などが必要な圃場の割合が相当増加すると予想されます。「低」であれば、防除回数を減らせるか防除しなくても済むような圃場の割合が相当増加すると予想されます。

低	普通	高
---	----	---

**発生消長の一例：** 発生予報は向こう1か月の予報ですが、その前後を合わせて40日ほどの病害虫の発生消長の一例をグラフで示します。大まかな目安として利用してください。

**防除の注意事項：** 向こう1か月の病害虫の特性と防除に関する説明です。

### 2) 「発生時期・発生量（平年日）の予察根拠」の見方

(±)：平年並の要因

(+)：発生量増加または発生時期遅延の要因

(-)：発生量減少または発生時期早期化の要因

## 5. 今月のトピックス 「タバココナジラミについて」

### 1. 三重県のタバココナジラミは

タバココナジラミはトマト、ウリ類、イチゴ、ナス等多くの農作物を加害し、一部の農作物にはウイルス病を媒介するため、対策に悩まされています。世界で40以上の系統があり、三重県では次の系統が見つかっています。

バイオタイプ B・・・一時期シルバーリーフコナジラミと呼ばれました

バイオタイプ Q・・・2005年に日本に侵入

バイオタイプ JpL・・・在来系統。農作物はほとんど加害しません

バイオタイプ BとQでは形態上の差異は認められませんが、薬剤に対する感受性が異なります。バイオタイプQでは多くの薬剤で殺虫効果が低下しています。三重県では2005年に採られた個体がバイオタイプQと確認され、現在はほぼ全域に広がっています。



図1 タバココナジラミ成虫と卵



図2 タバココナジラミ幼虫

### 2. 媒介するウイルス病は

タバココナジラミは多発生するとすす病を併発して果実等をよごしたり、トマトの果実やカボチャの葉に着色異常症を発生させます。しかし一番問題となるのは、少発生であっても次のようなウイルス病を媒介することです。

トマト黄化葉巻病 (TYLCV)・・・近年のトマトの重要病害

イスラエル系統 (長崎系統)・・・おもに九州、より激しく発病

マイルド系統 (静岡系統)・・・関東以西。三重県はこの系統

ウリ類退緑黄化病 (CCYV)・・・ウリ類。三重県では未確認です



図3 トマト黄化葉巻病の病徴  
新葉では葉縁の退色、巻葉  
展開葉では黄化、縮葉  
開花しても不稔

### 3. 防除対策は

トマト黄化葉巻病は発生してから防ぐことはできず、タバココナジラミをハウスに入れない「増やさない」「ハウス外に出さない」ことが重要です。次の耕種的な対策が有効です。

0.4mm以下の防虫ネットの設置

収穫後の蒸しこみ

ただし、ネット設置による通気性の悪化により施設内が高温となったり、葉かび病等が多発したりします。

ネオニコチノイド系や合成ピレスロイド系殺虫剤でバイオタイプBに効果があるのにバイオタイプQには効かない薬剤があります。同じ系統の薬剤を連続して使わないようにしてください。また殺虫効果が低いと感じたら使用薬剤を変更してください。

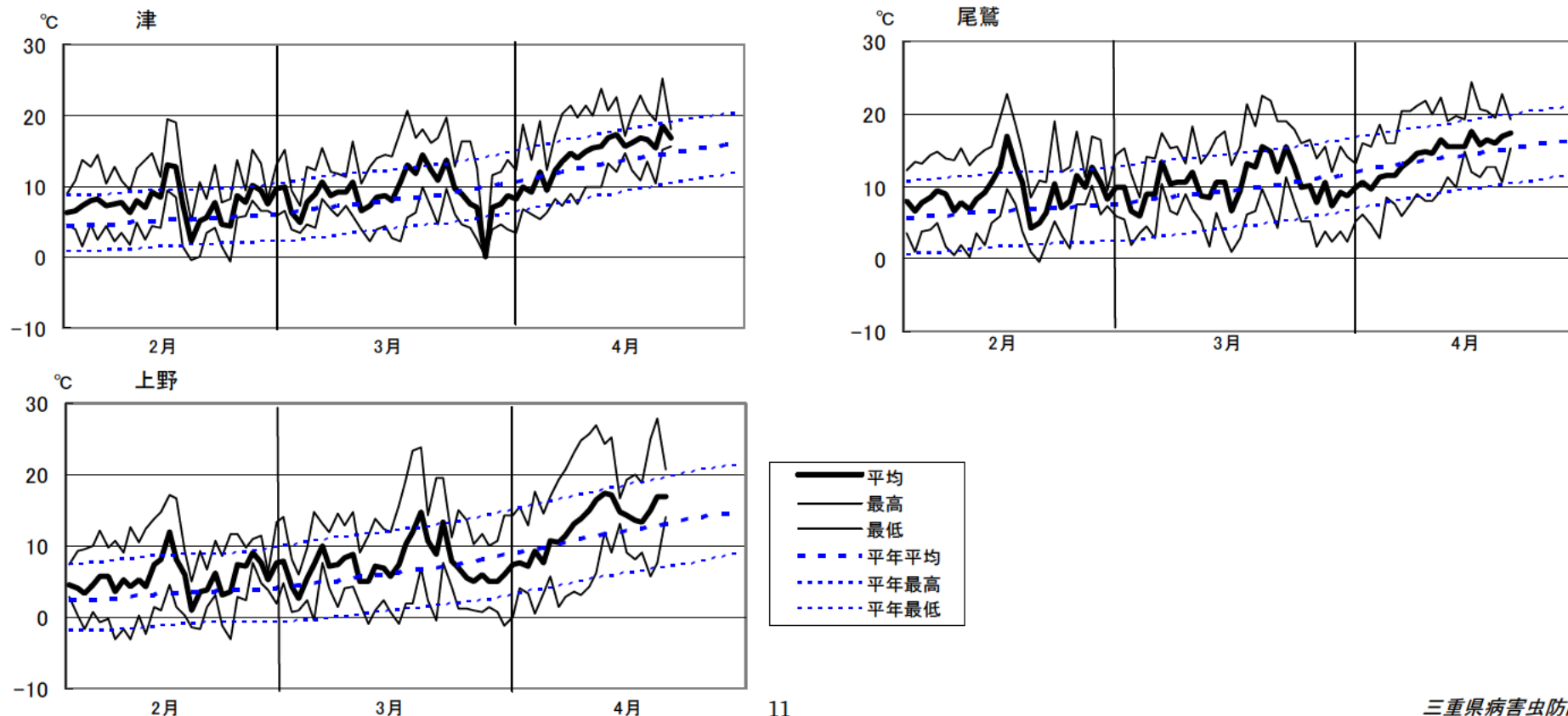
## 6. 気象のデータ

### 東海地方1か月予報 (平成21年4月17日 名古屋地方気象台発表)

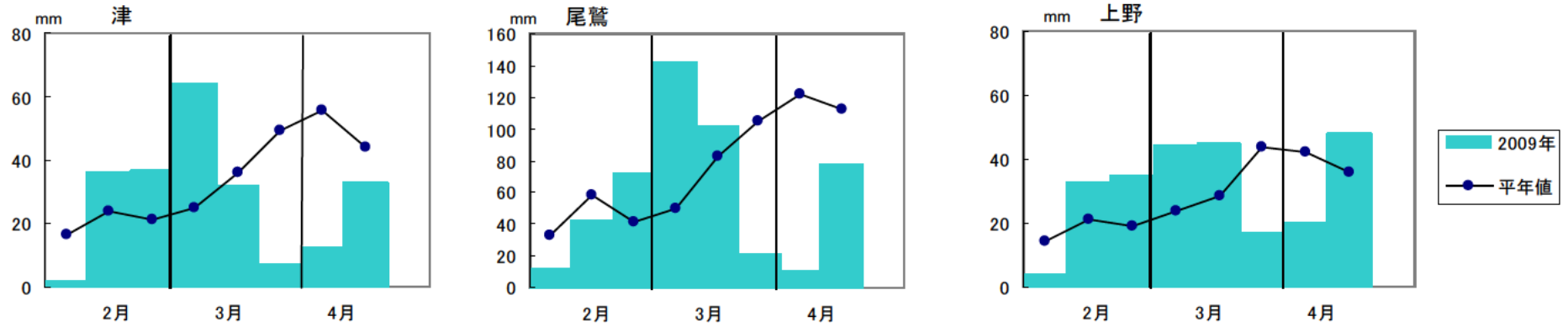
東海地方の向こう1か月は、天気は数日の周期で変わるでしょう。気圧の谷や低気圧の影響を受ける日がありますが、平年と同様に高気圧に覆われて晴れる日が多いでしょう。

1週目 (4月18日～24日)	期間の中頃に低気圧や湿った空気の影響で曇りで雨の降る日がありますが、その他は高気圧に覆われて概ね晴れる見込みです。	晴れ日数の平年値 約4日
2週目 (4月25日～5月1日)	天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れる日が多いでしょう。寒気の影響を受けやすいでしょう。	同 約4日
3～4週目 (5月2日～15日)	天気は数日の周期で変わるでしょう。気圧の谷や低気圧の影響を受ける時期がありますが、平年と同様に晴れる日が多いでしょう。	同 約8日

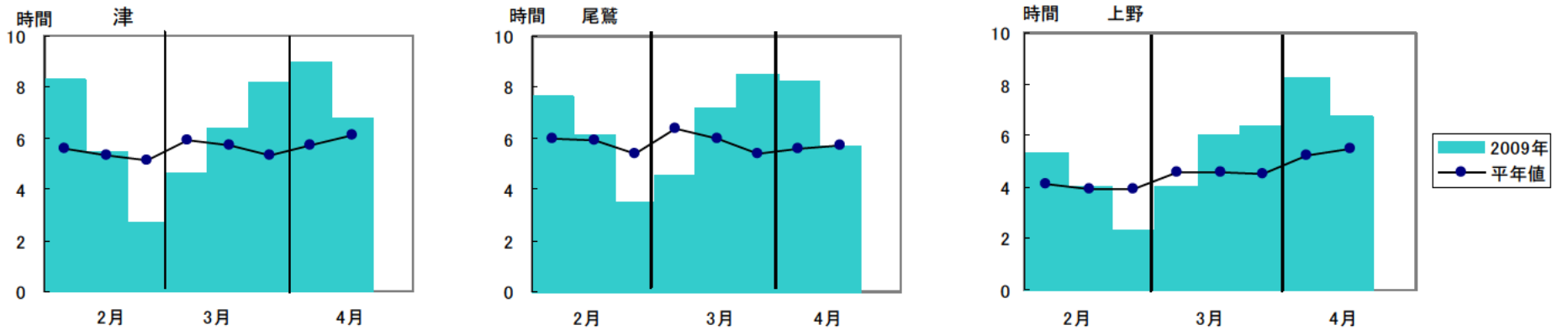
### 気温の日別推移 (気象庁発表データ <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php> から作成)



降水量の旬別推移 (気象庁発表データ<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>から作成)



日照時間の旬別推移 (気象庁発表データ<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>から作成)



## 7. おしらせ

### 1) 発表日

本年度の病害虫発生予報は次の予定で発表します。

- |              |               |
|--------------|---------------|
| 第1回 4月23日(木) | 第2回 5月28日(木)  |
| 第3回 6月25日(木) | 第4回 7月23日(木)  |
| 第5回 8月27日(木) | 第6回 10月22日(木) |
| 第7回 3月18日(木) |               |

### 2) 利用方法

全部または一部をコピーして回覧・配布にご利用ください。ただし必ずページの右下にある「三重県病害虫防除所」の文字が入るようにしてください。

病害虫防除所ホームページには、この予報をはじめとして、不定期に発表される警報、注意報、特殊報、技術情報や、各種のグラフ、写真も載っています。下記のアドレスからお入りください。

<http://www.mate.pref.mie.jp/bojyosyo/>

このホームページはフリーリンクです。リンクする場合、事前の承諾申請等は不要ですが、事後で結構ですのでメールにてご一報いただくと幸いです。

### 3) 本冊子の利用の手引き書

本冊子の見方を説明した「病害虫発生予報利用の手引き」があります。下記のアドレスからお入りください。

<http://www.mate.pref.mie.jp/bojyosyo/yoho/h20yohotebiki.pdf>

### 4) メール配信サービス

予報、警報、注意報、特殊報、技術情報が発表されたときに、ホームページに掲

載されたという「掲載通知」を電子メールでお知らせしています。このメールの配信を希望される方は、下記のアドレスからお申し込みください。

<http://www.mate.pref.mie.jp/bojyosyo/merumaga.htm>

### 5) 農薬登録状況の最新情報

農薬の販売や使用に当たっては、農薬登録上の制限があります。農薬の使用時はラベルをよく読んでください。次のインターネットサイトでは、最新の農薬登録状況が確認できます。

独立行政法人農林水産消費安全技術センターの「農薬登録情報」

<http://www.acis.famic.go.jp/searchF/vtllm000.html>

### 6) 三重県病害虫防除の手引き

新しい「三重県病害虫防除の手引き」が発行されました。